

心の輪13R



『裏庭でのできごと』という資料を通して、
「誠実な行動と責任」について考えました！



私が同じような立場にたったら、健二と同じように正直に先生に言いに行きます。やっぱり嘘をついてまで怒られるのを恐れるのはおかしいし、友達に責任を負わせるのも、友情が崩れる原因となると思ったからです。

私だったら正直に先生に言います。理由は、こんなことで友達との絆を壊したくないし、こんなことで後悔するのならば正直に言って、後悔をなくしたいと思ったからです。

僕もこういう感じの雰囲気があったけど、そのままみんなで先生に言いに行かなかったらどうなっていたかと思うと、とても怖いです。

私だったら三人でちゃんと正直に先生に言いに行きます。じゃないと、自分自身の気持ちもモヤモヤしたままだし、三人としても仲が悪くなりそう嫌だから。それに、大切な友達一人に、自分の罪まで押し付けるのはひどいと思うから。

もし、誰かが一枚割って、もう一人が一枚割って、どちらも一人目の人が先生に謝りに行くのではなく、自分のやったことは自分で認めて、ちゃんと自分のことを先生に正直に言える人になりたいなと私は思いました。

この時間を通して、改めて嘘をつくのはいけないことだと実感しました。正直に言うことで、自分の中でのモヤモヤした気持ちから、スッキリした気持ちに変わるので、正直な人になろうと思います。私が健二だったら、雄一と一緒に謝っていたと思います。

ついてはいけない嘘は、あまりつきたくないと思った。正直に言わないでモヤモヤするより、正直に言ってスッキリした方がいいなと思った。

だれ誰かに任せてしまえばラクチンだ。
逃げることができるし、知らないふりができるから。

——でも

そんな自分がかっこいいだろうか？

そんな自分のままでよいだろうか？

僕は健二と同じで、松尾先生の所に行き謝ります。なぜなら、今まで友達だった雄一と仲が悪くなりたくないからです。

私だったら、正直に言うかもしれないし、言わないかもしれない。私はその場の空気に任せているのかもしれないなと思いました。

この話から、一人の良い影響力が他の人を変えられると知った。僕もこの主人公みたいに、自分の都合ではなく、他から見て良い行動と悪い行動を見分け、行動でそれを示せるといいなと思った。

私だったら、この健二と同じように考えて先生のところに言いに行くとします。理由は、友達の責任だけにするのは、自分も割ったのにおかしいし、友達という関係を崩したくないからです。

今日の授業のようなことがあったら、正直に自分の気持ちを伝えて解決できるようにしたいです。また、自分がやっていなくても友達がやってしまったら、「正直に言おう」と声掛けをしていきたい。

私だったら、今回の健二のように、みんなで松尾先生に謝りに行くような判断をとると思います。理由は、たとえバシなくても、後で後悔するのは自分だと思ってしまうから。また、嘘をついてもいいことはないからです。



文部科学省資料
『私たちの道徳』P.23 より引用